

ほっと情報



ライオンズクラブ チャリティクリスマスパーティ



恒例となっておりますライオンズクラブ主催のチャリティクリスマスパーティが昨年12月18日に八女文化会館にて行なわれました。おいしい料理とともに陽だまりの里入所者の方の合唱や八女学院ブラスバンド演奏等々、そして最後にプレゼント抽選会と大変盛り上がりしました。

市民税非課税世帯を対象とした地デジチューナー無償給付の支援について (支援対象拡大分)

総務省では、経済的な理由などで地上アナログ放送から地上デジタル放送に移行することが難しい世帯に対する支援として、「NHK放送受信料全額免除世帯」を対象とした支援を行っていますが、この度、その対象を下記のとおり拡大しました。

支援の対象：市民税非課税世帯（世帯全員が市民税非課税の世帯）

注記1：すでに地上デジタル放送を視聴できる世帯は対象外です。
注記2：支援を受けるには、NHKと受信契約を結ぶことが必要です。



支援の内容：現在お持ちのアナログテレビに取り付ける「簡易チューナー」の無償給付を行います。また、電話によるチューナーの設置・操作方法のサポートを行います。

注記1：NHK放送受信料全額免除世帯を対象とした支援と異なり、アンテナ改修等は支援対象外です。
注記2：支援は現物給付ですので、ご自身で購入されたチューナーの費用を精算することはできません。

申込み申込みに関しては、「総務省地デジチューナー支援実施センター」にお電話ください。問合せに応じて申込書等が送付されます。申込書に必要事項を記入の上、「世帯全員が記載された住民票」及び「世帯全員分の市民税非課税証明書」を添えて、平成23年7月24日（日曜日）まで（当日消印有効）に、「総務省地デジチューナー支援実施センター」へご送付ください。

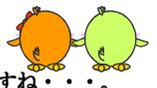
注記1：市民税非課税証明書は、平成3年4月2日以降に生まれた方（かた）の分は不要です。
注記2：平成23年度分は国の予算成立が前提です。

問合せ・申込み先：総務省 地デジチューナー支援実施センター
電話ナビダイヤル：0570-02-3724
IP電話など、ナビダイヤルがつかない場合：043-332-2525
開設時間 平日：午前9時～午後9時 土曜日・日曜日・祝日：午前9時～午後6時

お知らせ 8月5日(土) 14:00～ リーベルネットワーク会議を開催します。
この会議では、各分科会であがった課題の共通理解を深めていきたいと思ひます。

編集後記

1月19日に第1回の八女筑後久留米圏域の委託相談支援事業所の情報交換会を八女で行ないました。同じような悩みを抱えているという思いの共有とともに、「それっていいなあ。」との思いも感じ得ながら其々が自分の事業所へ持ち帰れたのではないかと思います。八女が一番！」と自負できるように皆さんとの連携で八女の福祉力をたかめていきたいものですね・・・。



発行責任者：八女地区障害者等相談支援センター「リーベル」
住所：八女市本村425-9
電話：身体しょうがい・知的しょうがい・しょうがい児 0943-22-2610
精神しょうがい 0943-22-2630

ことし ねが 今年もよろしくお願ひします。

ひろかわまち 八女町におきましては、あら 新たな 総合計画に基づき、ちいき 地域コミュニティをきばん 基盤として、ひとびと 人々があんしん 安心して、たの 楽しく、ゆたかに、そして、ほこりも 誇りを持って暮らせるまちづくりを目指しています。

また、これまですすめてきた行政改革の成果をたまたま、より 質の高い改革を行い、政策形成能力の向上に努め、公共サービスの充実と新たな事業の展開を進めていきたいと考えてお願ひします。

ことし 今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

さて、八女地区障害者等相談支援センター「リーベル」が、広域で開設して5年目を迎えます。しょうがい者の地域移行を推進して行くためには、ちいき 地域においてあんしん 安心して暮らしていけることが重 要であり、そのためには、目ごころからの悩みについての相談支援体制が整っていることが不可欠です。地域のしょうがい者（児）や、その家族の方々にとって「リーベル」の存在は何より必要なものとなっており、あつ 厚く感謝しております。

きよねん 昨年2月1日の八女市・黒木町・たちばなまち・やべむら 矢部村・ほしのむら 星野村との合併により、八女地区が1市1町となりました。今後、更に八女市と連携を深めて「～とともに創る共生社会の実現～」に向けて、

しょうがい者の皆さんの支えとなる拠点施設となるよう、ひろかわまち 八女町としましても障害者福祉施策に努めて行きたいと思ひしております。

あた 新たな年が皆様にとりまして幸多からんことをお祈りいたしまして新年のご挨拶といたします。



ひろかわちやうちやう 八女町長 わた 渡 なべ もと 喜



リーベルネットワーク会議 分科会報告

就労支援分科会

第6回の就労支援分科会は、前年11月に佐賀県の武雄にて杵藤地区自立支援協議会精神ネットワーク部会研修会があり、そこで、この2月2～4日で視察に行った宮城県のNPOステップアップ理事長の大場俊孝氏が講演をされましたので、事務局で聞きに行きましたので、その報告会を行いました。下記が、その時に、大場氏が言われていたことです。

大場氏の主張 「障害があっても働ける！」

就労の課題

- ・医療・福祉による**保護的環境**
→まだまだ**困り込み**がある現実
- ・障害特性が**正しく伝わっていない**
- ・行政・福祉・医療・教育・労働の**連携の不十分さ**
- ・社会資源の**活用が下手**
- ・社会全体で**支える仕組み**が必要

送り出し側（支援機関）の役割

- ・企業側への**障害特性の正しい伝授**
- ・本人及び企業側が**慣れるまで頻繁に関わる。**
- ・就職は**ゴールではない。職場定着のスタート**
- ・企業が「**求める人材**」を理解するべき。
- ・地域の**社会資源（企業団体）を有効活用**する。**企業との連携を大切に。**

（株）大場製作所社長

大場俊孝氏の紹介

創業者である父親の代から精神障害者の社会適応訓練事業を通じて、働くことが難しいとされる精神障害者を訓練から育て、今では十数名の障害者を社員として雇用し、精神障害者雇用の分野で全国的に先鞭をつけて来られた方。

職場定着には「（障害について）個人情報の開示、現場の協力・理解を得ることが重要！」とのこと。

宮城県栗原市視察 2月3日

視察先は、宮城県栗原市。宮城県の北東に位置し、八女市の1.5倍もある面積に人口は同程度の7万5千人という過疎地も多い社会資源の乏しい地域とのこと。

就労支援ネットワーク強化・充実事業における八女・筑後圏域の障害者雇用促進に係る先進地視察に就労支援分科会を代表し参加させてもらいました。（リーベル 大塚）

この栗原市には、（株）大場製作所という会社を中心に中小の企業15社（現在24社）で（この点が全国的にも珍しい点）NPO法人を立ち上げ、一般就労に結びつきにくいという精神障害者の就労移行に力を注いでいる事業所があります。それはNPO法人栗原市障害者就労支援センターで「NPOステップアップ」という就労移行支援と就労継続支援B型事業、そして地域活動支援センター「どんぐり」、就業・生活サポートセンター「あしすと」を運営されています。

一番の注目すべき点は、就労移行支援事業所におけるシステムで、①基礎講座と基礎訓練（初期、中期、後期）②職場実習③トライアル雇用等の制度活用④雇用 という流れが明確化していること。それと、その流れのなかで、定期的に個別ケア会議を本人、市の保健師やハローワーク、事業所を交えながら回数を重ねていくとのこと（就労後も）。それが定着に繋がるとのことでした。

企業体で作ってあるので、作業訓練の材料や職場実習先にも困らないという強みもあるとのことですが、何よりやはり大場氏という強いリーダーの存在が大きいようです。

作業訓練 (NPOステップアップ)



職場実習
→
（トライアル雇用など）
→
制度活用
→
就職へ



今回の視察には、八女法人会の会長であります（株）立花の大塚社長にも参加いただいています。今後、障害者福祉の就労に係るネットワークの構築に一役お願いしていきたいと考えています。

「あしすと」にて利用者作品の展示や販売



生活支援分科会

生活支援分科会は、6回目の開催を終え、第5回、6回はNPO法人権利擁護支援センター「ふくおかネット」事務局 永田啓造氏をお招きし、「成年後見制度について」の学習会を行いました。

DVD鑑賞から、～制度活用のイメージを膨らませ、～制度の手続きと手順のポイントについて～事例を通しての制度活用説明～など、現場で活躍されておられる方のお話を実際に聞いて、活発な議論が交わされました。

「類型によって申請の仕方が違うの?」「料金はいくらかかるの?」「どのようなケースを繋いでいけばいいの?」勉強していけばいくほど、疑問が膨れ、質問があふれてきます。

今後も、これまでの学習会をふまえ、さらに掘り下げて勉強会を継続していきたいと思っております。



永田 啓造 氏



教育分科会

平成22年12月15日に第4回目の分科会を開催しました。今回は、委員の方に事例提供していただき、今後どのような取り組みが必要か、どのような関係機関と繋がっていけばいいのか等、グループで検討し、意見交換を行いました。児童の事例でもあり、保護者と学校との信頼関係を築くこと、保護者同士の情報交換の場の紹介、進学の際には学校間の連携を十分に取ること等、支援する私たちにとって重要な視点を改めて考えさせられる機会となりました。

保育・学校現場の先生と福祉の支援者が一緒に知恵を出しあい、連携や支援のポイントについて意見交換をします。分野の異なる支援者の視点や意見を参考にしながら、お互いが高めあい、児童一人一人の生活が豊かになり、家族が安心して暮らせるようサポートできればと思います。分科会終了後には、各々必要な関係機関の人をつかまえて懇談されている姿が見受けられます。分科会を通じて、また一つ「顔の見えるネットワーク」が広がりと感じています。



八女地区障害者等自立支援協議会を2月21日（月）に開催いたしました。

第7回を数える八女地区障害者等自立支援協議会が、八女市役所203会議室でありました。会長である（社）上横山保育会の上田理事長の挨拶から始まりました会議は、新委員の紹介の後、さっそく議事となりました。リーベルの活動報告からリーベルネットワーク会議分科会の生活、就労、教育の各分科会の報告、それに対するの質問や意見の交換、それと委員さんの熱弁も飛び交いました。

リーベルにあがってくる相談の個々の課題から見えてくる地域課題に対して各分野のリーダー的な方々の意見、そこには、「官民協働で」この八女という地域の福祉力を高めたい思いが伝わってきました。

来年度以降の八女地区の自立支援協議会は、委員も増員予定で、さらにパワーアップし、八女の福祉変革の核となっていくと思います。

